

事業者向け 放課後等デイサービス自己評価総括表(公表)

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス ほみいくらぶ			
○保護者評価実施期間	令和6年11月15日		～	令和6年12月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24名	(回答者数)	18名
○従業者評価実施期間	令和6年11月20日		～	令和6年12月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月27日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	学校や就労、自立に向けての力になるような支援内容の充実 ※不安感がつよい、経験不足、経験させたくてもご家庭では難しい部分を事業所で行うことで保護者や児童から喜ばれている	修学旅行等に向けての練習として公共交通機関の利用と合わせて自分の持参したお金を計画的に自分のために有効に使う事が出来るようなイベントや支援を実施している	新たな行先の発掘や様々な支払い方、分からない時には誰を頼れば良いのか等、その場その場で知らせ本人の力に繋がるよう取り組んでいく
2	調理活動の内容の豊富さ ※自分自身の力を知り、出来ないものはきちんと聞く、出来る物は進んで行う力を身に付けられる事	毎回調理の役割については変更し、経験した事を行動に移せる場になっている。また、包丁等が難しい児童にも箸を揃えるコップの数を正しく数える等基本を丁寧に知らせている	年齢に合わせるだけでなく、難しい課題を皆で考え工夫して作り上げられる様な促しと支援の実施を行っている
3	小さなイライラやモヤモヤ、トラブルもそのままにせずその場一つ一つ寄り添いアドバイスをしたり解決に繋げられる指導員のスキルの高さ	表情や言動の変化を見逃さず言えるような空気感を作ったり必要に応じて声掛けをし自分の想いを伝えることが出来るよう促し一緒に考えて答えを導いている	時間をかけすぎず短期的に分かりやすく知らせたり、場合によっては選択肢を提示していく。指導員も悩みや不安感を職員同士で共有し、大人も子どもも同じように悩んだことを解決した上で支援していく

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所または地域と交流する機会の確保	新型コロナウイルス感染症対策として地域との関りも制限していた	感染症の流行を把握しながら対応策をしっかりと行い、事業所として出来る事で地域に貢献したり交流出来る機会を増やしていきたい
2	長期休みでは開所から閉所まで児童がおり、指導員間でのミーティングやコミュニケーションが少し少なくなってしまう	トラブルにはなっていないが、しっかり情報共有が出来ない時間があり、スムーズに動けない時もある。	事業所のスマートフォン等を利用して情報共有を行い、短時間でもコミュニケーションを図れるよう工夫し、時間を作っていく
3			